

当院の AmoyDX 肺癌マルチ遺伝子 PCR 検査に繋げる ROSE の役割

◎西郡 慎吾¹⁾、諏訪 朋子¹⁾、師岡 恭之¹⁾、石塚 瞳¹⁾、竹内 一真¹⁾、佐藤 駿¹⁾、諏訪 直生¹⁾
船橋市立医療センター¹⁾

【はじめに】近年,肺癌の治療は分子標的薬,免疫チェックポイント阻害剤の普及により,最適な治療法選択のために,Rapid on-site cytologic evaluation (以下 ROSE) は確実な検体採取の手段として重要性が増している.当院においても気管支鏡検査における ROSE は,手術のための診断目的のほか,バイオマーカー検査へ繋がる手段として臨床医から期待されている.

今回我々は当院における AmoyDX 肺癌マルチ遺伝子 PCR 検査 (以下 Amoy 検査) に繋げる ROSE の役割について検討したので報告する.

【対象と方法】2022 年 11 月~2023 年 10 月に気管支鏡検査 225 件のうち ROSE が実施された 162 件について検討する.採取した検体の染色には Diff-Quik 染色を用い,臨床医と共に鏡検し評価した.結果報告は悪性の有無、推定組織型,腫瘍細胞の量と質を口頭で報告し,検体不良時には臨床医の協力のもと検査方法や穿刺回数,穿刺場所をかえ可能な限り確実な検体採取に取り組んだ.

【結果】気管支鏡検査 (EBUS-TBNA 含む) 225 件のうち

162 件の ROSE を実施した.気管支鏡検査での ROSE 実施率 72%,陽性率 75.3%(陽性 112 件,偽陽性 10 件).

Amoy 検査実施件数 78 件(ROSE 実施気管支鏡生検 48 件,手術材料 22 件,胸水 8 件),成功率 100%,陽性率 42.3%であった.

【結語】ROSE は確実な病理診断や,バイオマーカー個別の検査のトリアージなど治療方針決定の迅速化に繋がっている.また,Amoy 検査は特に DNA と RNA の質と量が求められるなかで ROSE によって成功率を高める一助となっていると考える.当院では標本作成に人的制限がある中,臨床科と一丸となって,適切な情報共有と検体採取により Amoy 検査の精度の向上へ繋がった.これにより治療方針の迅速化と患者への負担軽減にも繋がり ROSE の役割は大きいと考える.

船橋市立医療センター

047-438-3321